

第1回 ふくいの森林・林業のあり方検討会における主な意見

<現行計画の成果や現状に対する主な意見>

○森林・林業関係について

- ・福井の山にどのような森林資源があるのか、本当に使える森林資源がどのくらいあるのかをきちんと把握し、その上で丸太を生産する体制をどう確立するかというアクションプランを立て、丸太の供給量がどのくらいになるかを予測することが必要である。
- ・素材生産コストを検証した上で、生産に見合う森林資源量がどの程度あるのか把握が必要である。
- ・大径材や長尺ものを出すなら計画的に基幹道を整備することなどが必要であり、基幹道を含む路網整備の方針を県として再検討すべきである。

○木材加工・流通関係について

- ・A材に関しては、木材の特性を十分に活かした使い方について、関係者の間で一層研究することが必要である。
- ・今後は都市圏における中大規模木造施設が増えることが予想されるため、県内だけでなく都市部にも本県のB材を加工した木材製品（集成材やLVL(※)など）を供給していくことが必要である。
※木材を薄く剥いた単板を3枚以上、繊維方向が平行になるよう積層接着した製品
- ・内装材需要の増加が見込まれることから、それに伴って需要が伸びることが期待される不燃木材や防腐木材の生産体制を整え、供給力を強化することが必要である。内装材以外に関しても木材製品製造の技術開発を進め、これまで木材がほとんど使われなかったところを置き換えたり、そうした需要に応えたりする体制を充実していくべきである。
- ・他県と違うことを見出し、ターゲットを絞って取り組むことが必要である。
- ・福井の木材をインテリアなどに使える商品開発ができれば良い。
- ・丸太や木材製品の出し方、売り方を考えていく必要があり、川上側と川下側の情報共有、連携が大事である。

○県民に対する啓発について

- ・森林の管理や木材の利用に関する地域の人たちへの積極的な働きかけにより、森林の大切さを県民に強く伝えてほしい。

<森林・林業の目指す姿、今後の森林・林業政策についての主な意見>

【森を活かすプロジェクト】

- ・ICT技術（航空レーザー等）を活用して、森林資源量を定量的に把握するとともに、「資源循環の森」と「環境保全の森」に沿って、ゾーニングすることが大事であり、どういう方針で整備・管理していくのかを考えていく必要がある。
- ・これからは、地域特性を生かして特徴・特色のある林業を行っていくべきである。スギ・ヒノキ以外に何があるのか、どのような利用ができるのか、長期的にどのような森林を造成していくのか等、色々なことを検討し、チャレンジしてほしい。
- ・地域性を踏まえて主伐・再造林を進めてほしい。ただし、再造林の際に獣害対策をどうするのか産学官の協力が求められる。
- ・採算性の合わない林地をどう管理していくか。
- ・林業が、若い人や女性が活躍する場になってほしい。
- ・施業地を確保していくために、施業コストをいかに下げるかが重要である。
- ・福井県では小規模の森林所有者が多いことを念頭に、コミュニティ林業のように集落機能を活かして森林資源を上手く活用していく必要がある。

【木を活かすプロジェクト】

- ・福井らしさをアピールすべく、大径材や長尺ものの活用や異業種との連携による付加価値を高めた製品開発を推進する必要がある。
- ・他県や海外に売っていくには消費者ニーズを把握しながら木材の新しい使い途を開拓する必要がある。

【森に親しみ、森を守るプロジェクト】

- ・特用林産物は地産地消を前提にブランド化して付加価値をつけ、さらに市場頼りでは価格が上がらないため、高く売れる販路を開拓していく必要がある。
- ・林業遺産のことは福井にいながら知らなかった。これはすごいことであり、周知徹底を図りながら福井の良いところを県民に広く知ってもらいたい。
- ・各地で災害が増えているが、防災や減災の一助として山の手入れの重要性について啓発活動を行ったらどうか。
- ・木育が注目されている。木育施設や木製おもちゃなどは、知恵を絞って独自のものを開発したらどうか。